

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス・ハートフレンド		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に合わせて、一人ひとりにていねいな支援を行うことができる職員配置	子どもの特性やその日の様子に合わせ、柔軟に対応できるようにしている。指導員の数も多くし、一人ひとりに細やかに関われるようにしている。	この取り組みを継続できるようにする。研修などで支援者自身の資質向上、育成をしていく。
2	保護者への説明・支援により良好な関係性	年2回、個別支援計画に基づき個別面談を行っている。日々の連絡は連絡帳、line、送迎時などで連絡事項をお伝えしてる。スパー・ルイヤーによる個別相談や保護者会を開催し、助言や研修の機会を設けている。	この取り組みを継続していく。
3	デイでの過ごし方、個別支援に対する満足度	一人ひとりに寄り添い、お子さんの成長に合わせた支援をし、安心して過ごしてもらっている。スタッフの入れ替わりも少なく長い間一緒に成長を見守り、家以外の居場所を提供している。	療育の内容など恒常化しないように留意する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が希薄なこと。	近くに児童館などがなく、小学生高学年、中学生、高校生など地域の学校に通われている利用者は、注目を浴びたくないという児童が多いため。	法人主催のこどもおまつり、クリスマス会などに積極的に誘い、地域のこどもたちと交流してもらおう。少し遠い公園などに行き、他の子どもたちと交流する機会を作る。
2	非常事態に備えた訓練や対応の周知	避難訓練は年12回実施し、お便りなどでも周知してもらっているが、その他の非常時の対応は提供できていない。	安全計画その他の非常時の対応を利用者、保護者に周知・提供していく。
3			